

問

遠野市の農政40年間を振り返ってみるに、数百億の予算を投入しながら、個々の農家経営は改善されていないのではないか。花卉であるリンドウ、食用茸であるマッシュルーム、淡水魚である山女、どれを見ても遠野市の特産品とはならなかった。しかし特産品に届かなかった原因の検証が必要ではないのか。

大は、行政が専門職を配置して支援し、農家の所得向上を図るべきと考えるがどうか。農家所得の向上こそ町の繁栄、イコール市財政の充実へと繋がると考えるがどうか。

答

今までタフビジョンの目指す姿を実現するために常に検証を忘れず、関係機関の連携により取り組んでいく。販路拡大については、先進地に学ぶことは大切である。平成17年4月にアストを設置し、JA農業普及サブセンターと協力しながら、新たな契約栽培等の販路の開拓に取り組んできた。人材の確保と育成に關しては、必要不可欠な取り組みであること痛感していることから、積極的に取り組んでいく。農

第二次産品の 販路拡大について



萩野茂男議員（とおの会議）

業生産と所得を拡大し、元気な農業者を育成しながら、遠野市を元気な町にしていこうと考えている。今までJA農業普及センターと連携し、栽培技術を高め、消費者ニーズに応えられる農産物の生産を

目指し、さまざまな挑戦をし、農業の発展に取り組み覚悟である。



遠野の特産品のひとつである山ぶどうワイン